



信金中央金庫  
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2020-74  
(2021. 1. 20)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048  
URL <http://www.scbri.jp> e-mail : [s1000790@facetoface.ne.jp](mailto:s1000790@facetoface.ne.jp)

## 幡多信用金庫におけるシステム構築態勢の整備 および投資計画の策定について

四国支店 皆上 直人

### ポイント

- ▶ 幡多信用金庫<sup>1</sup>(以下「当金庫」という。)は、経営基盤の強化に向けて、経営陣主導のもと、業務システムの見直しを進めている。
- ▶ 業務システムの見直しにおいては、関連各部の連携が重要となることから、システム構築態勢の整備を行うとともに、システム企画書の共通フォーマットを作成のうえ、現行の業務内容や業務フローの精査についても併せて実施することとした。
- ▶ 新規システムの構築に必要な費用については、当金庫の今後の収益計画を踏まえる必要があることから、収益・費用シミュレーションを実施のうえ、システム投資計画を策定した。
- ▶ 新規システムの導入に加え、業務システムのシステム基盤を共通化することで、運用負荷の軽減および費用削減を見込んでいる。

### 1. 経緯

当金庫では、中期経営計画における貸出金残高目標を昨年度前倒しで達成するなど、本業は堅調に推移している。そのため、次期中期経営計画(2021~23年度)においては、さらなる経営基盤の強化に向けて、業務効率化にも積極的に取り組む方針であり、業務システムの見直しはその一環として行うこととなった。

最近の金融業界においては業務効率化を図る機運が高まっており、業務の抜本的な見直しのほか、IT技術の進展等で登場する各種システムを積極的に活用する動きも急速に進んでいる。しかしながら、システム化構想や計画が曖昧なままシステム投資を進めた場合、コストの割には十分な効果が得られないばかりか、システムベンダーからは都合の良い顧客と見られる恐れもある。

こうしたシステム投資の難しさを踏まえ、当金庫では経営陣主導のもと、システム構築態勢の整備等に取り組んでいる。

### 2. 取組み概要

#### (1) システム構築態勢の整備

当金庫のシステム企画・開発・運用については、事務部が日々の事務作業と並行しながら対応しているが、中長期的な新規システムの導入も含めた業務システムの見直しの場合、各部が抱える業務課題やシステム投資費用の当金庫

決算への影響等が把握しづらく、事務部単独での対応は難しい状況であった。

そこで、経営戦略を担う総合企画部の担当役員主導のもと、業務システムの企画・開発については、業務に精通するユーザー部門が中心となって取り組む方針に改めた。また、各部が抱える業務課題について、システムの企画段階で効果的に検討を行うため、システム企画書の共通フォーマットを作成し、現行の業務内容や業務フローを可視化することでムリ・ムダ・ムラを排除するなど、抜本的な見直しに取り組むこととした。

#### (2) システム化構想の策定

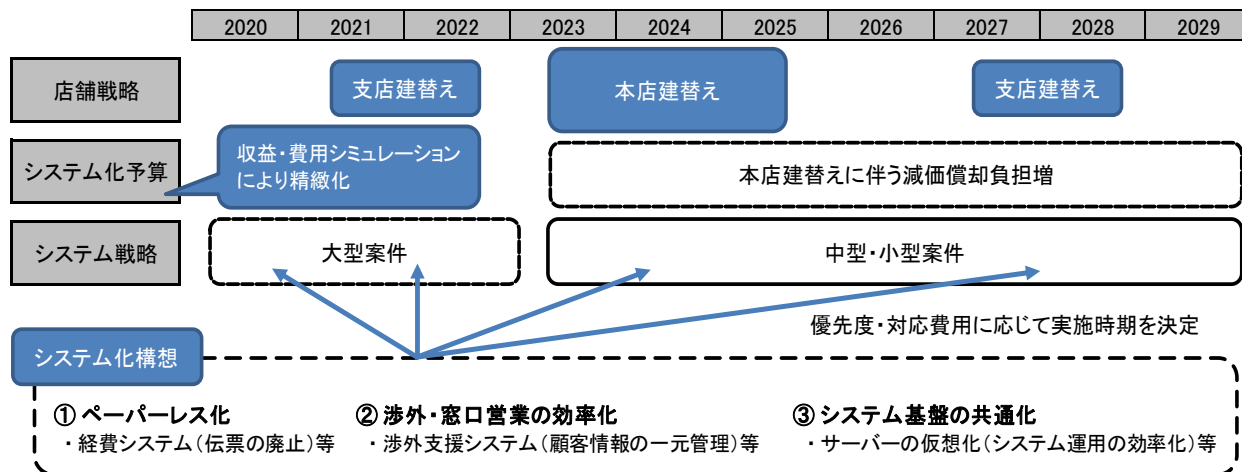
システム化構想については、関連各部の役職員が協議しながら検討を進めた。当金庫では、紙ベースの書類管理や顧客情報の一元管理、窓口セールスの時間捻出が課題となっていたことから、ペーパーレス化にかかるシステムおよび効率的な渉外・窓口営業を可能とするシステムについて、対応を行うこととした。また、システム運用面についても、システム毎に構築しているサーバーやPCの管理が煩雑になっていたことから、システム基盤を共通化することとした。具体的には、システム毎にある物理的なサーバーを仮想化<sup>2</sup>するとともに、OSやアプリケーションソフトのアップデートの都度作業が

<sup>1</sup> 2020年3月末の当金庫の概要は以下のとおり

本店所在地：高知県四万十市、預金量：1,493億円、貸出金量：806億円、店舗数：14店舗、役職員数：170人

<sup>2</sup> 複数のサーバー機能を物理的なサーバーに集約する技術。主なメリットは、①物理的なサーバーの台数が減り、設置スペースや消費電力が節減、②サーバーの追加時には機能追加で済み、物理的なサーバーと比較して容易かつ安価、③バックアップ拠点にサーバーの情報をコピーしておくことで、被災時には短時間で復旧が可能(BCP対策)

## ● システム投資計画



発生している PC を VDI 化<sup>3</sup>し、効率化を図ることとした。

### (3) システム投資計画の策定

当金庫のシステム対応は、これまでは勘定系システムやシステム基盤の保守作業が中心であり、業務を意識した中長期的なシステム投資計画は未策定となっていた。また、当金庫全体では、本店を含む老朽化した店舗の建替えなど店舗戦略に伴う費用についても、向こう 10 年間で相応に見込んでいたことから、システム化に伴う各年度予算の算定および各システム化案件の実施時期の精査が課題であった。

そこで、システム化予算の精緻化にあたり、収益・費用シミュレーションを実施することとした。収益シミュレーションについては、保守的に見積もるため、監査法人の承認を受けている計画値を活用し、費用シミュレーションについては、店舗戦略も踏まえて今後の見込みを算定することとした。また、予算の大きい費目については、関連各部がそれぞれ主体となり、現行システムや店舗設備の保守期間延長のほか、代替手段の確保など案件の妥当性や費用抑制も併せて検討した。

これらのシミュレーション結果をもとに、各システムの優先度および対応費用を勘案しながら案件化の実施時期を決め、システム投資計画を策定した。

なお、当該計画については、今後の収益見込みやシステム構築状況等を踏まえ、毎期見直す方針である。

<sup>3</sup> Virtual Desktop Infrastructure の略で、PC のデスクトップ環境をサーバー上に集約する技術。物理的な PC からサーバー上の自分の仮想的な PC を呼び出し、画面に表示・操作する。主なメリットは、①サーバー上で PC を集中管理するため、アップデート等のメンテナンスが容易、②物理的な PC は最低限の機能(画面表示・操作)実装で済むため、安価、③どの PC からでもサーバー上の自分の PC を呼び出せるため、リモートワークも可能

## 3. 成果

### (1) 業務の見直し

中長期的な新規システムの導入も含めた業務システムの見直しについて、ユーザー部門が中心となって対応を行ったことで、システム企画段階において現行の業務内容や業務フローの問題点を洗い出すことが可能となった。また、システム企画書の共通フォーマットを作成したことで、業務要件の整理手順が統一され、現場の意見も共有されやすくなった。実際に経費システムの導入時には、請求書の製本作業や本部・営業店間の管理資料の廃止など、業務の抜本的な見直しにつながっている。

### (2) 費用の平準化

収益・費用シミュレーションを実施した結果、今後の費用の平準化を図るとともに、収益水準を踏まえ、当金庫の身の丈に合ったシステム投資計画を策定することができた。

### (3) システム運用の効率化

システム共通基盤については、現在構築中であるが、サーバーを仮想化することで物理的に構築するよりも費用をかけずにメンテナンスや保守期限の管理が容易になると期待される。また、同時並行で構築中の PC の VDI 化についても、最低限の機能(画面表示・操作)を実装した PC を故障するまで使い続けることで、保守期限に合わせた更改対応が不要となるほか、5 年周期で発生していた数百万円規模の PC 購入費用も大幅に削減される見込みである。

## 4. 今後の展開

業務システムの見直しについては、他行庫と競合しない分野であり、各種セミナー等での情報収集に加え、今後は他行庫担当との意見交換や現場視察等を通じて積極的に連携強化を図り、当金庫全体で効果的な対応を進めていく。

以上